



「農の暮らし」(32)

左うちわの脱お金生活 廃材天国

自給自足の生活をしたいけれど、仕事もお金も心配だし…。という悩みを解決した実践例として、廃材を使うことでお金から離れた生活を送る一家を訪ねました。(高崎 渉)



秋山陣さん(39歳)・彰子さん(40歳)

香川県丸亀市、畑と民家が混在する市街地の一角で存在感を放つ、一風変わった家の名前は「廃材天国」。5人家族の秋山さん一家は、解体業者からタダでもらう廃材で作ったこの家で、極力お金から離れた自給自足の生活を送っています。

『地球村』と出会い生活が一変

16年ほど前に2人一緒に『地球村』の講演を聴き、環境問題について何も知らなかった自分たちにショックを受けました。

その後、『地球村』の講演会の主催など積極的に活動をするうちに、自分たちの生活を通してより実践を深め



ていきたいという思いがつのり、結婚を契機に今の生活をはじめました。

彰子さんからの「電気もガスも水道もなしの生活がしたい」という要望から、料理、暖房、風呂と、熱源は全て薪。井戸を手掘りし、一本も新品の木を使わず

にほとんどタダで家を建てました。最近



は廃材として出たソーラーパネルを設置し、ディーゼルカーを15万円かけててんぷらの廃油で動

くように改造するなど、エネルギーの自給にも着手しています。

「5年もてばいい！」発想の転換

当初は2人とも、建築の経験は全くありませんでしたが、長野で「カナディアンファーム」を営む長谷川豊さんの「家は5年もてばいい。建てるたびに上手になる」という考えに触れて勇気をもらい着手。陶芸の窯(かま)の薪にと、大量にもらっている廃材を使って家を建てました。陣さんいわく、「プロが作った家でも時間が経つとズレた瓦を直したり何かとメンテナンスしていくものだし、家は自分で直すという感覚でいるのがいい。今住んでいるのは土、木、石などの天然素材で作った『日本昔話』のような家。木が腐ったら取り替えればいいんです」。

陶芸の世界で見たお金社会

本職は陶芸家である陣さんは、高校を卒業後、20歳で陶芸の世界に弟子入りし、そこでの経験が、その後の生き方を方向づけました。

「焼き物の世界は高い入会金を払って大きな組織に所属することからはじまり、誰々先生の一門として独立するもの。有名な先生の弟子でなければ作品を売ったり賞を取ったりできないので、みんな何千万という借金をして陶芸家をはじめ、どんどん作品を売って返していく。でも、それを目の当たりにして、「自分はやりたくない」と感じました。そんな時に、コンテナを改造した家に住み、買ったなら500万円はする窯を自作している先生に出会いました。お金の社会から離れたその先生は、菜園を作って、いつも仲間が集っていて…こっちの方が絶対に楽しい！って。お金中心の社会の中にいたらなかなか気づけないけれど、ちょうど『地球村』で知った社会の矛盾と自分を取り

まく環境のおかしさが重なり、気づくことができたのが良かったです」。

お金を必要としない生活へ

「マイホームなどで何十年というローンを組んでしまうと、その間は絶えずお金を追いかける生活になり、絶対に仕事を辞められない。大切なのは、借金をせず、お金を必要としない状況を作り出すこと」と陣さんは言います。今の暮らしは、



家賃、借金、ローン、土地代もゼロ。自給自足だから買い物もほとんどする必要が無く、ちゃんと絞った油と、海から作った良い塩、無添加の調味料さえ買えばいいとのこと。決まった仕事は無く、

収入は不定期に入る陣さんの出張ピザ窯作りや廃材建築、彰子さんのマクロビオティックスイーツ作りなどですが、それでも支出が少なくお金に困ることはないとのこと。本人いわく、「非常に快適な左うちわ生活です。日本中で土地があまっているんだから、本気で探せばいい場所はいくらでも見つかります」。

楽しく心地よく生きるには

本当はこのように楽しくて心地いいはずの生き方に立ち返るために陣さんが大切にしていることは、1.「自分の好きなこと、やりたいこと、向いていること」を徹底的に実践することと、2.「ひとにやらされること、決まりを守ること、やりたくないけれどお金のためにやること」をやめていくこと。

「急に全ての仕事をキャンセルはできないけれど、会社に行きながらでも色んなものを手作りできます。自給自足や自然食、自宅出産、ホームスクーリングなど、これらは全部セットなので、一つやると次が見えてきて、自ずと依存しない生活にシフトしていきます。我慢とか自己犠牲でやるものでもなくて、消費社会から離れた本質的な遊びだと思えます。自給自足や衣食住、エネルギーの自給ができ

るのは当たり前。アートや医療、教育の自給など、どんどん楽しくなりますよ」。

学校に行くかを子どもが決める

秋山家の子どもは、長男の野遊（のゆう・10歳）、二男の土歩（どっぽ・8歳）、長女のにこ（4歳）で、3人とも自宅出産。3人目は陣さん自ら取り上げました。秋山家では、その日に学校に行くかは子どもたち自身に決めさせています。すでに料理や、火の扱いも上手く、大人が使う大工道具も使いこなします。本当に生きる力を身につけた彼らが、次の世代のリーダー的な存在になっていくのかもしれない。



体験と実践が社会を変える

陣さんいわく、「経験がないからできないというのは決め付け」。味噌作りも漬け物も、一回できたら次からは当たり前のようになれるようになります。さらに、てんぷらカーやロケットストーブなど、自給的な暮らしの知恵はネットにたくさんあるけど、実際に現物を見に行くと実践が一気に加速すること。そして、自分たちだけで密かにやっていくのではなく、皆に体験してもらいたいという願いもあって、廃材天国はイオンも徒歩圏内にある市街地にあります。廃材天国では見学はお断り。手伝いながら学びたいという「弟子入り」のみ歓迎という姿勢で、一緒にいろんな作業をやってもらうことにしています。そうした体験の積み重ねが、今の社会システムが維持できなくなった時に、次の生き方を示し、社会を変える原動力になることを願って。

弟子入り歓迎！

廃材天国

Tel: 0877-55-5525

Mail: haizaitengoku@gmail.com

763-0053 香川県丸亀市金倉町 526-3

ブログ: <http://kadoya.ashita-sanuki.jp/>

